

「京都議定書」が採択された場所から環境へ配慮した取組の推進

【国立京都国際会館の概要】

- 開館：1966年5月21日
- 管理運営：公益財団法人国立京都国際会館
- 事業内容：政府又は政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致、運営及び会議場施設の管理、国際交流と日本文化の普及事業、国際会議等におけるパーティ等の飲食提供に係る事業を行う日本の代表的なMICE施設（※）

（※）会議（Meeting）、報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、展示会・イベント（Exhibition/Event）などの総称



【食品ロスの削減を目指して】

1997年12月に「地球温暖化防止京都会議（COP3）」が開催され、「京都議定書」が採択された場所であり、京都市では環境へ配慮した取組が行われてきた。社会全体においてSDGs気運が高まる中、今後もサステナブルな社会の実現に向けた議論が交わされる舞台としてふさわしいMICE施設であり続けるために、環境に配慮した取組を積極的に推進。



【これまでの成果】

- ケータリングで提供するペットボトル飲料を廃止。約3万5千本分のプラ削減効果。
- 館内飲食店のプラ製食器（ストロー、スプーン等）を紙や木材を原料とするものに変更。

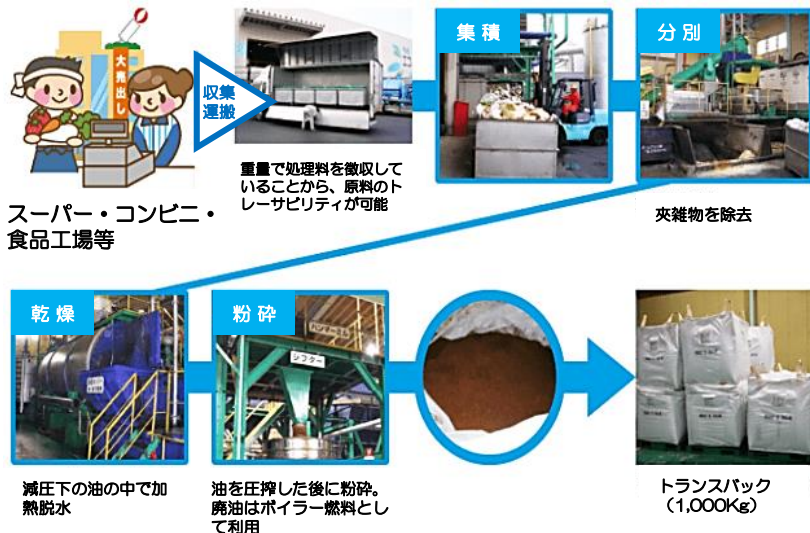


※ 紙製のフタ、容器



- フードリサイクルを起点とした食材・資源等の循環の仕組みや、催事における廃棄物の種類・量の見える化などの取組の検討。

【全ての食品廃棄物をリサイクルへ】



- 2023年1月より、施設内で排出した全ての食品廃棄物を再生利用し、新たな資源として活用する取組を開始。
- 長岡京市にある廃棄物処理・再生設備を有するフードリサイクル事業者に回収を委託し、飼料化。



※ 再生された飼料は、エコフィード飼料として大手飼料メーカーなどにて利用される

- 会議場内の厨房や飲食店舗から出る調理ゴミ、パーティーや弁当などの食べ残しなどを対象とし、年間約26~30トン程度の食品廃棄物が再生利用される見込み。



【このほかの取組】

＜GBAC STAR™認証の取得＞



・国際的な衛生基準を満たした施設であることを証明するGBAC STAR FACILITY ACCREDITATION (GBAC STAR™認証) をアジアのMICE施設で初めて取得。

(※) 2020年、米国で誕生した国際認証制度。新型コロナウイルスのほか、エボラ出血熱やジカ熱など、感染症対策のエキスパートが考案した感染症予防に特化した認証プログラム。

＜社内研修の取組＞

- 担当部署だけにとどまらない、組織全体のサステナビリティ推進の機運醸成のため、社内研修で全職員がフードリサイクル関連施設を訪問。



※ 施設訪問の様子